

令和元年 10 月 24 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 令和元年 10 月 24 日 (木曜日)

午後 2 時 30 分から午後 3 時 05 分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席委員

教育長 金澤 俊道 委員 鷲尾 達雄 委員 青柳 由美子
委員 大久保 真紀 委員 荒木 正

4 職務のため出席した者

教育部長	小池 隆宏	子ども未来部長	波多 文子
教育総務課長	曾根 徹	教育施設課長	遠藤 雄一
学務課長	笠井 晃	学校教育課長	中山 玄
学校教育課主幹兼管理指導主事	高橋 和久	学校教育課主幹兼管理指導主事	神林 俊之
学校教育課主幹兼管理指導主事	丸山 巧	中央図書館長	山田 あゆみ
科学博物館長	小熊 博史	子ども家庭課長	田中 剛
保育課長	田辺 亮	青少年育成課長	斎藤 裕子
スポーツ振興課長補佐	野澤 満郎		

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	安達 紀子	教育総務課長補佐	植村 裕
教育総務課庶務係長	佐藤 裕	教育総務課主査	内藤 貴幸
教育総務課主事	小林 理恵		

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2		議席の指定について

7 会議の経過

(金澤教育長) 会議に入る前に、荒木委員が本日から会議に参加ということになるので、一言あいさつをお願いしたい。

【荒木委員あいさつ】

(金澤教育長) これより教育委員会 10 月定例会を開会する。

◇日程第 1 会議録署名委員について

(金澤教育長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第 19 条第 2 項の規定により、青柳委員及び大久保委員を指名する。

◇日程第 2 議席の指定について

(金澤教育長) 日程第 2 本日 10 月 1 日から荒木委員が新たに教育委員に就任して最初の定例会になるので、議席の指定をする。議席の指定については、会議規則第 4 条の規定に基づき教育長が指名することとなっているので、今の着席の席で指定をする。

(金澤教育長) それでは本日は議案がないため、これから協議報告事項に移る。最初に、家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール審査会結果について 事務局の

説明を求める。

(斎藤青少年育成課長) このポスターコンクールは、平成19年度から家庭で子どもにお手伝いをさせよう運動の参加型の取組として実施をしている。今年度は市内の小学校1年生から中学校3年生まで合計43校146点の出品があった。審査会は、10月4日に行い、5人の審査員が審査した。結果は、大賞の豊田小学校3年生坂牧真太朗さんと附属中学校1年生吉原芳歌さんを始め、優秀賞、奨励賞、入選の26人が選ばれた。大賞2点の表彰については、豊田小学校は10月30日に大久保委員が全校集会で表彰する予定になっており、附属中学校は10月16日に青柳委員が学年集会で表彰した。26点の作品は11月9日から14日まではさいわいプラザ1階のホールに展示し、11月16日から24日まではアオーレ長岡西棟3階の市民協働センターに展示する。また、ポスターとあわせて審査員からのコメントを記載しているのでぜひ見てほしい。

(金澤教育長) 質疑、意見はないか。

(金澤教育長) 出品数が昨年度185点から今年度146点に減少しているが、一昨年度の出品状況はどうか。

(斎藤青少年育成課長) 一昨年度も188点だったので、今年度大きく減っている。学校単位というよりは、個人が夏休みの宿題の中から申し込むものになるので、今回は申し込みが少なかったと思う。

(金澤教育長) もう少し長い目で見るとやはり少しずつ減っているのか。

(斎藤青少年育成課長) 概ね200点を切る出品数で平成19年度から推移しており、学校で学年の宿題として取り組んだ年は200点を越えたこともあったが、大体180点前後で推移している。

(金澤教育長) 今回の減少は、中学生の出品が減ったなどの傾向はあるか。

(斎藤青少年育成課長) 特に傾向はなく学年も平らに減っている。また、低学年の方がたくさん作品している。

(青柳委員) 個人の申込みではあるが、毎年見ていると学校で先生がどのようにPRするかによって、子どもたちが夏休みにちょっと絵を描こうかなという雰囲気が出てくると感じている。その雰囲気が上手に出てきた学校の子どもたちが継続して応募しているのだと思う。私が表彰式に行った豊田小学校の吉原芳歌さんも5、6

年続けて応募してくれている。やはり、こういうコンクールがあることがわかった児童や生徒は、継続して応募してくれる。それと先生方の学校でのPR、力の入れ加減なのかなと感じている。

(斎藤青少年育成課長) 優秀賞の栃尾南小学校のお子さんも去年大賞だったお子さんであり、継続的に応募してくれるお子さんもいる。やはり一度取り組んでみて、また来年も取り組みたいとか、学校の先生がどういうふうで紹介しているかということは大変なポイントだと思う。

(金澤教育長) お手伝いを推奨するポスターの前提として、お手伝いをするという教育は、今学校現場でどのように行われているのか。

(斎藤青少年育成課長) 夏休みに入る前のお便りで、夏休みにお手伝いに取り組んでみませんかと家庭に取組を進めている小学校もあると把握している。

(神林学校教育課主幹兼管理指導主事) 学校の取組も様々である。どの学校でもお手伝いは大切なことだと考えていて、例えば校長が全校朝会で伝えたり、夏休みの課題に入れたりしている学校もある。そこから更に担任が声をかけるとか、PTA総会で声をかけるとか、実際の啓発は学校によって様々である。

(波多子ども未来部長) そもそもこのお手伝いをさせよう運動が浸透しているのかということもあるし、学校ではお手伝いではなくて、それぞれの家庭で役割を持ちましょう、という指導もある。この運動も10年経ったのでどういう形が良いのか検討していきたい。

(大久保委員) お手伝いをさせようという言葉が、かなり強い言葉だと感じる。

(青柳委員) それについては前にも話が出たことがある。これはお母さんやお父さんは、自分がやればすぐ終わることを子どもたちにあえて時間をかけてさせることによって、子どもたちが家族の一員としての役割だとか、大人に成長する段階で必要なものを身に付けていくということである。お母さん、あなたがやれば簡単に終わるところだけど、お手伝いさせてあげてくださいという部分がスタート時に討議があった。それでさせようという言葉をあえて使っていた。

(金澤教育長) この運動については、長く続けてきて定着した部分もあるだろうし、見直す必要がある部分もあるかもしれない。

(荒木委員) 学校では長期休業中の生活の一環として、家族の一員としての役割を

果たそうということ、それがお手伝いになるのかどうかは別として、どの学校でも指導している。その後、ポスターコンクールに出品するかどうかは個々の学校や学級に任されているので、それが出品数の変化に出ると思う。大事なところは、家族の一員としての役割を果たそうということである。家庭で子どもにお手伝いをさせようという趣旨を変えていくなれば、もう一度学校に伝達し、理解をしてもらう必要がある。

(金澤教育長) ポスターコンクールだけではなく家庭で子どもに手伝いをさせよう運動についても事務局で詰めてほしい。

(金澤教育長) 次に、「スポーツによるまちづくり推進に関する協定」締結式開催について事務局の説明を求める。

(野澤スポーツ振興課長補佐) 10月8日に「スポーツによるまちづくり推進に関する協定」の締結式を行い、長岡市長とヨネックス株式会社の林田社長、長岡市スポーツ協会の市村会長の3者で協定を交わした。協定締結の経緯については、平成29年3月にスポーツ推進計画を策定し、その後、昨年10月8日体育の日に議員発議でスポーツ推進条例が施行された。スポーツ推進条例というのはスポーツ推進計画を後押しするという理念的な条例であるので、いよいよ2020東京オリンピック・パラリンピックまで1年を切って、国民、市民の関心が高まっている今こそ、スポーツによるまちづくりの推進に関する協定を締結しようということになったものである。また、ヨネックス株式会社は、秋田県的美郷町と東京オリンピックのタイのバドミントンチームのホストタウンとして包括連携協定を結んでおり、埼玉県草加市ともヨネックス株式会社のバドミントンチームの練習場ということで連携協定を結んでいる。本市は3件目ということになる。また、長岡市スポーツ協会は、長岡市とプロバスケットボールのアルビレックス新潟とアルビレックス新潟の後援会と4者で包括連携を締結している。長岡市としてスポーツに特化した包括連携は今回が初めてとなる。教育委員会からは、協定締結による具体的な取組のうち、特にジュニア選手の育成などについて、アイデアを出してもらい、スポーツによるまちづくりを推進していきたいと考えている。

(金澤教育長) 質疑、意見はないか。

(鷲尾委員) このプラットフォームに関して、部活の指導をしている教員がより指

導力を向上する、若しくは今まで指導の経験はないが、指導者になりたい若手教員の登用など、学校の先生が関わっていく部分はあるか。

(野澤スポーツ振興課長補佐) 部活動全般にも、ジュニア選手の育成の中でヨネックス株式会社や長岡市スポーツ協会と連携して進めていきたい。また、トップアスリートだけではなく、部活動の選手をどう向上させていくかもこれからの課題として、教育委員会から意見をもらいながら連携を深めていきたいと考えている。

(金澤教育長) 現在見直しをしている熱中！感動！夢づくり教育のスポーツ事業にソフトテニスやバドミントンは入っていないが、今後入れられる可能性があるということか。

(中山学校教育課長) 現在は、軟式野球、バスケットボール、サッカーなどで調整しているが、この協定を機会に来年度以降は個人種目にも広げていきたいと考えている。

(鷲尾委員) それならばもう少し協定の概要に踏み込んだ表現がないと、学校との連携が伝わらないのではないか。

(野澤スポーツ振興課長補佐) ジュニア選手の育成では、部活動の記載はないが、まずはこの協定で骨組みをつくって、その後、様々なアイデアや意見をもらって進めていくこととなる。実際もうすでに取り組んでいるものはたくさんあるが、今後協定をきっかけに推進していきたい。

(金澤教育長) 具体的な中身については、まだ今後検討して、取り組む余地があるということか。

(野澤スポーツ振興課長補佐) そうである。

(金澤教育長) ではぜひ形になるようにしてほしい。

(金澤教育長) 以上で、協議報告事項を終了する。

(金澤教育長) 次に、催し案内について、補足説明のあるものは挙手願う。

(小熊科学博物館長) 第15回関原楽市・縄文まつりについては、関原地区商工会と共催で毎年行っており、火焰土器が発見された国指定史跡の馬高・三十稲葉遺跡を会場として、縄文文化を紹介するイベントである。次は寺泊民俗資料館がトキミーの開館に合わせてリニューアルして一周年の記念講演会である。11月9日に新潟県歴史博物館の研究員を講師に迎えて、寺泊の食文化について講演会を行う予

定である。次に例年行っている生物・岩石標本展示会・自然科学写真展示会を 11 月 12 日から 17 日まで中央公民館の大ホールで開催する。

(田中子ども家庭課長) 11 月は虐待防止推進月間ということで、アオーレ長岡、さいわいプラザ、各支所を始め、子育ての駅や、保育園、幼稚園、小中学校に、リーフレットやポスターを設置し、社会的関心事である児童虐待防止の喚起と啓発を積極的に取り組むという内容である。次に、ちびっこ広場で 11 月 16 日に今年で 4 回目になる長岡ロータリークラブとの共催で、テレビ等で活躍されている遊び歌作家の鈴木翼さんをお迎えして、親子の触れ合い遊びを開催する。

(斎藤青少年育成課長) 親も育つ子育てセミナーは、家庭教育の講演会で 11 月 16 日に開催する。糸魚川市教育委員会の教育相談センターで主任教育相談員をしており、お笑いタレントの横澤夏子さんのお母さんの横澤富士子さんの講演会を企画している。定員 60 人で募集しているが、現在申込みが 80 人を超えている。

(金澤教育長) 質疑、意見はないか。

(金澤教育長) 次に今日は学校訪問に行ったので、一言ずつ感想をお願いしたい。

(大久保委員) 岡南小学校へ訪問した。学校の先生にも伝えたが、子どもたちは本当に良い子達であいさつがしっかりできる、給食を食べる時もしゃべらない時間をきちんと守れる、授業に対しても前向きに取り組んでいる姿勢が見られて、とても良い学校だと感じた。統合した学校ということで工夫している点などを学校から説明してもらい、先生たちも苦労しながら一生懸命取り組んでいると感じた。

(青柳委員) 統合して 1 年半が経った学校だったが、先生方がどちらの学校に所属していた子どもたちも疎外感がないように工夫していて本当に子どもたちがピュアな印象を受けた。校長先生は、かけがえのない大切な学校がなくなって 1 年半が経ったと言っていたが、先生方が頑張っているのを拝見し、かけがえのない大切な学校がなくなって 1 年半ではなくバージョンアップして 1 年半経ったような印象を受けたのでそのように伝えた。おそらく地域の方々も統合してしまっただけでなく統合してよかったねと感じていると思う。そして、統合したことによって、スクールバスを校外学習等で活用することができ、必要なときに柔軟に対応できるというメリットもあって本当にありがたいという声を先生方から聞くことができ大変うれしかった。

(荒木委員) 浦瀬小学校に訪問した。児童数 87 名の学校だった。主に授業では外国語活動や外国語の授業を見てきた。学校全体として非常に先進的な取組をしており、外国語活動及び外国語の授業においては、市内をリードしている授業なのではないかと思った。また、小さな学校であったが、新採用の職員が 1 人入ったおかげで学校全体で新採用を育てようという意識が生まれ、それにより学校が活性化してきたという話を聞き、実際にそういう方向へ進んでいると感じた。ただし一方で、色々なことに取り組んでいるので、今話題になっている多忙化、働き方改革という面では整理が必要だと思った。

(鷲尾委員) 2 点感じたことを述べる。1 点目は、やはり組織はリーダー次第だと感じた。桑原校長先生が素晴らしく明るくリーダーシップのある校長先生で良い先生だなという印象を持った。ご本人は、この学校の伝統だとか、子どもたちとか先生方が素晴らしいという話をしていたが、私は桑原校長先生のパーソナリティに引っ張られて、個々の潜在能力が開花してるのではないかと感じた。2 点目は、教育委員会がもっと世間に発信する必要性を感じた。例えば働き方改革とかルールとか目標とかを現場に与えて、それを実行するために、現場は苦心惨憺しているが、目標を与えるだけではなく、それを実行するために教育委員会があまねく世間にも発信して地域や親が理解できるような雰囲気や情操を醸成して欲しい。そういうことを学校に言われたわけではないが、教育現場の働き方改革も先生方は楽をしたいわけではなく、より子どもの教育環境を良くするための改革なんだということを教育委員会が地域に発信していったほうが良いと感じた。

(金澤教育長) 現場を見ての教育委員の感想、意見なので、できることはやっていきたい。

(金澤教育長) 以上で本日の定例会を閉会する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員